



東横連携だより LINK

地域とのつながりを大切に

病院理念 「生命の尊厳とキリスト教の愛の精神」を重んじ、病める人を癒す、愛ある医療を目指します



新年のご挨拶

副院長・看護部長 倉岡 圭子

新年明けましておめでとうございます。本年もよろしく
お願い申し上げます。

武蔵小杉駅周辺は、高層マンションと大型商業施設の開業に伴い町の風景も変化してきました。そして人口増加に伴いにぎわいと活気のある地域へと発展しています。地域住民のみなさまにとって医療は大切な生活のポイントでもあります。地域のみなさまが健康的な生活を営まれるように医療機関はサポートしていくことが役割であります。

来る2025年、超高齢化社会の対応に向け、国は着々と医療供給体制の再構築を進めています。

それは、医療機関の機能分化と連携、在宅医療の強化で、病院完結型の医療から地域完結へと流れを変える動き、地域包括ケアシステムの構築です。

平成24年の診療報酬改定において入院基本7対1の看護体制の病院には在宅復帰率75%以上の要件が負荷されました。益々、病院は外来での支援の取り組みが重要となるでしょう。そして入院決定より退院先を考え治療、ケアを計画的に進めていく必要があります。



当院は急性期医療を担う任務として、限定ではありませんが脳・消化器・心臓疾患等の急性期の患者さまを受け入れ、治療後速やかに地域にお返しができるように医療技術の向上を目指しながら多職種協働のもと、地域のクリニック、ケアマネージャー、訪問ステーション、介護福祉関係のみなさまとの連携を一層強化し、患者さまを住み慣れた地域で臨む暮らしへ移行できるように調整していくことが求められています。当院では、医療支援連携室を中心に外来・入院病棟を含め一層の連携を深めてまいりたいと思いますのでよろしくお願いいたします。

SAS 外来

健康診断センター・循環器内科 SAS 外来担当 吉田浩幸

睡眠時無呼吸症候群は、Sleep Apnea Syndrome の頭文字から SAS (サス) と呼ばれています。SAS は読んで字のごとく睡眠中に呼吸停止を来す疾患ですが、呼吸再開時に覚醒を伴うことが多いため、呼吸停止の回数が多くなると、深睡眠が得られなくなり、熟眠感の欠如や強い眠気、集中力の欠如といった日中の症状を呈するようになります。しかしながら、眠気などの症状は自覚しない(あるいは意識しない)ことも多く、SAS 外来受診のきっかけとなる主な症状は、<周囲の人>からの「睡眠中に呼吸が止まっている」という指摘です。また、最もよくみられる症状はいびきの指摘であり、受診されたほとんどの方に認められます。このように SAS の診療では、<周囲の人>からの情報はとても重要です。

SAS は睡眠にも呼吸にも影響するため、睡眠障害でも



あり呼吸障害でもあります。スクリーニングとしては、自宅でも可能な簡易睡眠呼吸検査がありますが、睡眠の評価は出来ないため、確定診断するには、睡眠も

呼吸も同時に記録する終夜睡眠ポリグラフィー検査 (PSG 検査といいます) が必須です。この検査は、1泊入院が必要で、睡眠や呼吸をモニターするためのセンサーを多数装着しなければならないため手間もコストもかかります。当院では、以前から週1回、SAS 専門外来を行い、PSG 検査にも対応して参りましたが、平成26年7月からは担当医が増員されたため、従来の毎週金曜日に加えて、毎週火曜日と第2、4、5週の木曜日にも、SAS 専門外来を行えるようになり、PSG 検査も以前と比べ多くの件数を行えるようになりました。

症状が気になる場合やすでに簡易検査などで SAS が疑われる場合には、お気軽にご紹介して頂ければと思います。微力ながらお役に立てればと思っております。今後ともどうぞよろしくお願い申し上げます。



PSG検査のセンサーを装着した吉田医師



専門外来一覧

平成27年1月現在

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	土曜日
消化器病センター						※セカンドオピニオン 宮島 伸宜
心臓病センター		睡眠時無呼吸 (PM) 吉田 浩幸	※ペースメーカー (PM) 徳丸 睦 ※禁煙外来 (PM) 坂根 健志	不整脈 (第1・3PM) 滝村 由香子 睡眠時無呼吸 (第2・4・5PM) 吉田 浩幸	心臓血管外科 (第2・4AM) 本院医師 睡眠時無呼吸 (PM) 関塚 宏光	※禁煙外来 田中 修 ※生活習慣病外来 田中 修
脳卒中センター	※セカンドオピニオン (PM) 植田 敏浩	ボツリヌス治療 (PM) 小野 元、野越 慎司	脳血管内治療 (AM) 植田 敏浩	頭痛外来 (PM) 野越 慎司	物忘れ外来 (PM) 吉江 智秀	

(診療時間) AM 9時～11時 PM 14時～16時 ※・・・完全予約制
土曜日は第2、4、5の午前中のみです

の紹介

リハビリテーション室

リハビリテーション室には、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士などのリハビリテーション専門職者が合計9名在籍しています。開院以来、診療協力部門として各センターの医師や看護師と連携をしながら、早期のADL向上と社会復帰を図るために、十分な評価とリスク管理を行いながら、ICUやSCUに在室中の場合も含め、出来るかぎり発症後早期からのリハビリテーションを提供してきました。

当院の各センターの特徴でもある、急性期の低侵襲な治療にて可能な限り安静の状態を低減しても、リハビリテーションが必要となる方は、一定の割合でいらっしゃいます。そのような方たちに、できるだけ早く在宅での生活に戻っていただけるよう、必要であれば円滑に回復期病院でのリハビリテーションへ進めるよう、早期離床・立位歩行練習、ADL練習、嚥下評価・練習など、多職種



との協同のもと、さまざまな面からのサポートを行っています。また、地域の医療資源のなかで提供がむずかしいとされる心臓リハビリテーションに関しましては、外来にて中長期的なフォローを行える体制を整え、再入院率の低減などの成果を得ています。

今後は、地域包括ケアを提供する急性期病院のリハビリテーション部門として、地域の医療機関や通所・訪問リハビリテーション施設のみなさんと情報交換を行い、連携を進めていくことができれば、と思っています。

看護部 外来

看護師長 森本順子

外来患者の来院者数も年々増加し、患者さまをご紹介頂き感謝申し上げます。

当院外来は、午前中は一般外来・午後は専門外来の形で1週間を運用しています。

専門外来として、脳卒中センターは頭痛・物忘れ・ボツリヌス、心臓病センターはペースメーカー・不整脈・SAS、また週1回ですが心臓血管外科も実施しています。現在、外来患者数は1日約250名位となってきました。基本的に予約制の為、予約のない患者さまは待ち時間が発生して大変ご迷惑をおかけしております。ご紹介の際は医療支援連携室にご連絡いただければ、予約もしくは事前に連絡調整し、患者さまの待ち時間を少しでも減らして診察へご案内できるようにしたいと考えていますので、地域の先生方には御一報いただければ幸いです。

外来看護師の役割として診察援助、日帰り化学療法、看護専門相談などの対応も行っています。

そして、診察の流れがスムーズに出来るように問診・



検査・処置などの調整を行うとともに、看護ケアとしてストマ・禁煙などの相談指導・支援などを行っています。電話での受診相談、生活相談業務も行っています。

日帰り化学療法については9月より2床から5床へ拡大しました。通院治療はもとより疾患や治療の不安や疑問などにも対応し通院が継続できて、生活のQOLが向上できるように支援しています。

今後、入院日数は短縮する方向性にはありますので、病診連携を図りつつ外来はより充実を図っていきたいと思います。

緊急のご紹介について

当院は救急指定病院として地域住民や地域医療に貢献すべく、各センターがホットラインを備え、救急隊や近隣の医療機関からの要請に対し24時間365日体制で的確な診断、迅速な治療を行うための体制を整えております。

医療機関専用・各センターホットライン（医師直通）
各センターの医師が直接対応いたします（24時間）

脳卒中センター **080-5498-9536**

心臓病センター **080-5498-9493**

消化器病センター **080-5498-9516**

救急外来 連絡先
TEL: **044-722-2121** (代表)

救急外来 FAX
FAX: **044-722-1771** (救急外来)



私たちが対応いたします。
救急外来受付

「医療連携講演会」について

当院では平成26年10月より「医療連携講演会」を開催しています。当院の各センターのトピックスや、ご紹介いただいた患者さんのその後の経過などをご報告いたします。是非スタッフの皆さんとともにご参加ください。

- 第1回 10/22 「急性期脳梗塞に対する最新治療：抗血栓療法と血栓回収療法の現状」
- 第2回 11/19 「高感度トロポニンが診断に有効であった胸痛」、「肺炎との鑑別に難渋した心原性呼吸苦」、
「心エコー再入門 左室駆出率から最新技術」
- 第3回 1/13 「大腸内視鏡治療後の出血」、「除菌治療を成功させるちょっとしたコツ」
- 第4回 2/18 「東横病院健康診断センターオープン後、1年が経過して」
「睡眠時無呼吸症候群の診療で気になること」

医事課長 兼 医療支援・連携室課長 村松隆志

聖マリアンナ医科大学東横病院
〒211-0063 神奈川県川崎市中原区小杉町3-435
TEL:044-722-2121 (代表)
TEL:044-722-2216 (医療機関向け・連携室直通)
FAX:044-733-6658 (連携室直通)

東横病院

検索

編集
後記

新春の候、皆様にはますますご繁栄の事とお喜び申し上げます。第1号では各センターの紹介をさせていただきましたが、今回は、専門外来や各部門の一部を紹介させていただきます。これからも皆様に興味・関心を持って頂けるように様々なトピックスをご紹介していきたいと思っております。(M・Y)

平成27年1月2号発行 発行元：医療支援・連携室連携便り編集委員

通常の診療・検査予約

TEL: **044-722-2216**
(医療機関専用・連携室直通)

・まずお電話にてご希望日時の相談を賜り仮予約をお取りいたします



FAX: **044-733-6658**
(医療機関専用・連携室直通)

・仮予約後、紹介状(FAX用)をFAX送信してください



・本予約後、予約票を返送いたします
※原則30分以内に返送いたします

電話・FAX対応時間

平日 8:30～16:30
土曜日(第2,4,5) 8:30～12:00

※FAXは24時間稼働しておりますが、時間外のFAX返送対応は、翌日又は休診日明けとなりますので、ご了承くださいませようお願い申し上げます。